

AFPY だより

Adventure Friendship Program in Yamaguchi

創刊号

H26.4.16

山口県教育庁 義務教育課

社会教育・文化財課

はじめに

「AFPY はゲーム的に活動を楽しむだけではだめですか？」

「AFPY には、どう取り組んだらいいですか？」

このようなご意見をうかがうことがあります。AFPY は、個人や集団の成長及び人間関係づくりにおける効果から学校教育や社会教育の場で多く取り組まれるようになってきました。

しかし、“AFPY の言葉は知っていても、実践したことはない”という方も少なくないようです。

そこで、AFPY に取り組んでいる、または、これから取り組む皆様の実践を支援し、県内の一人でも多くの子どもたちが AFPY の学びの楽しさや喜びを体験できるようにするため、「AFPY だより」を創刊することにしました。

この「AFPY だより」は、毎号2ページ程度とし、各学校にメールで送付することにより、全ての教職員の手に届くようお願いしています。

時期や学校行事に合わせた取組事例や、AFPY に関する研修会情報等を紹介し、皆様の日々の実践に活用していただけたらと考えています。

活動を通じて 学ぶこと

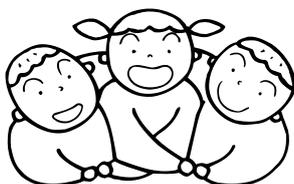
「フィンガーソーセージ」と呼ばれる、次のような実践があります。

- ①顔の前で、両手人さし指の指先同士を近づけていってください。
- ②近づけながら指先の方をじっと見てください。
- ③宙に浮かんだソーセージが見える瞬間がやってきます。
- ④近づける指の数を2本、3本と増やすのに合わせて、見えるソーセージの数も2本、3本と増えていきます。

ソーセージがすぐに見える方とそうでない方とがいるはずですが、あることを意識すればきっと見えるようになります。4本のソーセージまで見える人もいます。ヒントは【視点を変える】です。

“ソーセージを見る”という目標に向かい、何度も「試行錯誤」します。そのうち、自身の発見や仲間の気づきにより「見えた!!」の瞬間がやってきます。そこから、「目標達成へのスピードは人によって異なる」ことや「仲間からのアドバイスの必要性」「視点を変えてみることの有効性」に気づき、その気づきや考え方は実生活のいろいろな場面でいかされていきます。

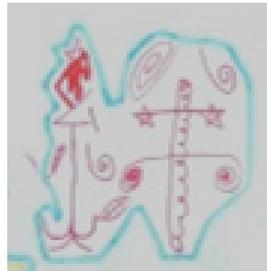
このような、他者との関わりを通じて学んだことを実生活にいかし、個人や集団の成長をめざす取組について、県内 AFPY アドバイザー*による実践を次ページでご紹介します。（※AFPY 実践に関する相談者の関わりを担います。現在県内で21人が登録しています。）



この時期、こんな実践を!!

《ねらい》クラスで大切にしたいことを考え、みんなで納得する			
『リレー習字』			
教科・領域	特別活動(学級活動)	時間	40分程度
準備物	A4用紙、水性マーカー		
活動の実際 ※留意点	<p>①班に分かれ、「リレー習字」の練習をする。 (例)「楽」という漢字を一人ずつ順番に一画ずつ書く。その際、書き順や書体、色は自由にし、漢字そのものへの思いを込めるようにうながす。 ※実際に作成されたものを紹介することで、取り組みやすくなる。</p> <p>②一年間、クラスで大切にしたいことを漢字一字で表す。 ※班の中で、アイデアを出し合い、話し合いにより決定する体験をする。</p> <p>③練習の要領で、「リレー習字」をする。</p> <p>④できあがった漢字を、班ごとに発表する。</p>		
ふりかえり	<p>○その漢字に決めたのは、どうして?</p> <p>○字を書くときに、どんなことを感じた?考えた?</p> <p>○難しかったことは何かある?その時、どうした?</p>		
継続的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 各班が決定した漢字がすべて入るようにしたキャッチフレーズをみんなで考え、「1年間、みんなで大切にしたいこと」として、教室に掲げる。 このキャッチフレーズを1年間通しての様々な活動の際の振り返りの視点として、その都度、今後につながる具体的な取り組みを考えていく。 		
子どもたちの感想や変容、等	<ul style="list-style-type: none"> 学級で何かトラブルがあった時、教師の「みんなの決めたキャッチフレーズの中の何が、今、足りないんだろう?」との問いかけに、子どもたちはリレー習字で考えた漢字を答えていた。この繰り返しにより、次第に、子どもたちが互いにキャッチフレーズを言い合ったり、その中の文字を取り上げてふりかえったり、その場その場での活動の目標にしたりするようになった。 		
実践者からのひとこと	<p>学級の目標を、教師が決めるのではなく、子どもたち自身が全員の総意で考え作っていくという過程が大切だと思います。なぜなら、自分たちが考え決めたことは、自分たちが望むことであり、納得のできることだからです。これをもとにいろんな場面でふりかえることで、学級目標が一人ひとりの心に入っていくと思います。1年のスタートに、こうして自分たちでいい学級にしていこう!という気持ちを高めることは、とても大切なことだと思います。</p>		

(岩国市立麻里布小学校 亀岡祥子先生による実践)



AFPY |

検索

~社会教育・文化財課のHPで、AFPYに関するリーフレットや研修会情報等をお知らせしています。~